



# 校長室だより

校長 山崎 聡子

## 挨拶について

挨拶とは「相手に心を開く」という意味があるのだということをお教えたのは高校時代の恩師です。毎朝、昇降口にお立ちになり、校舎に入る生徒一人一人の目を見て挨拶をしてくださる先生でした。いろいろな悩みを抱えながら朝を迎え、気分が晴れない状況の中で登校する私に、温かな眼差しでじっと見つめて挨拶をしてくださるので、温かさがじんわりと心に染み入り元気をいただいたことを今でも思い出します。そんな体験もあり、挨拶が人に与える影響は大きいと実感しています。人と人が繋がる上で基盤となる挨拶を大切にしていきたいと思っています。

先週の職員会議において、児童指導担当の総括教諭から、「友達に挨拶をすること挨拶されたら必ず返すこと」の2点について、学校全体で取り組んでいきたいと思います。挨拶をとおして、お互いの存在を意識し、心の交流が図れるよう、子供の育ちを支えたいと思います。

登校の見守りの中で、教頭と共に子供たちに挨拶をしています。声かけに挨拶を返す子、目を見て自ら挨拶をする子、うつおいて通り過ぎる子等、様々です。毎日元気な思いで朝を迎えられないこともあると思います。だからこそ、「いい一日になりますように」と願いを込め、引き続き、子供たちに挨拶をしていきたいと思っています。

「明るく元気にあいさつをします」これは、ざまっ子八つの誓いの1つに示されています。ざまっ子八つの誓いとは、明治15

年に座間市で誕生した鈴木利貞さんが作った「幼年会」（子供の自立を促す）の中で子供たち自らが約束した「柿の木の誓い」を現在の子供たちの誓いに発展させたものです。「挨拶を大切にすること」は、本校のみならず、座間市内全校で大切に取組む内容にもなっています。また、豊かな心を育むひまわりプランの中にも、家庭や地域の中でも挨拶を大切にすることが推進されています。学校・家庭・地域それぞれの中で、挨拶をし合うことを大切にしながら温かな繋がりを築き、子供たちの心を育てていきたいと思っています。

## 相東っ子まつり

9月23日(土)、久しぶりに相東っ子まつりが開催されました。雨でも実施できるようにと配慮された中でのお祭りとなりました。作ったプラバンを嬉しそうにたくさんの子供たちが見せてくれました。スーパースポーツ・ペットボトルボーリング・輪投げも多くの子供たちが参加してくれました。フリーマーケットは、歩く隙間がないほど大盛況でした。5年生のダンスヨーヨーの技の披露、相東バンドは体育館で行われましたが、会場に集まった子供も大人も一つになり盛り上がりました。その他にも、フォトスポットやビデオの視聴、お菓子のプレゼント等、たくさん工夫がされていました。相東っ子まつりの委員長を中心に、委員の皆様や御協力いただいた多くの保護者の皆様のおかげで、子供たち一人一人の心に楽しさが刻まれたお祭りになりました。感謝申し上げます。